

春の選抜高校野球大会 対戦校決まる

西岡歯科通信

四年ぶりの通常開催

高松、東邦高校と鳥取北の勝ちの対戦が決定

第95回選抜高校野球大会（3月18日開幕・甲子園）に出場する高松商に2月28日、開会式の行進で使用する選抜旗が届けられた。選抜旗の授与式が高松市松島町の同校グラウンドで行われ、選手と長尾健司監督らが出席。式では齋藤洋二県高野連副会長が「先輩方の栄光を自信と誇りに変え、一致団結して頑張ってください」とあいさつ。校長と校章が記された選抜旗は、渡辺浩三校長が大会の主権者から受け取った後、横井亮太主将に手渡された。

3月10日（金）午前9時より毎日新聞社大阪本社にて行われた。その結果、高松商業高校は第七日目の第2試合で愛知県代表の東邦高校と鳥取県代表の鳥取北高校の勝ち対戦が決まった。「守り勝つ野球」で、目標のベスト4を目指して頑張ってください！

また、横井主将が、本大会の開会式における選手宣誓を行うようになった。宣誓文には高松商のスローガン「一枚岩」を盛り込みたい」と抱負を述べたようである。

18日から阪神甲子園球場
決勝3月31日12時30分

常葉大菊川

西岡歯科医院
〒760-0062
香川県高松市塩上町
3丁目14番17号
☎087-831-1987

昨秋行われた神宮大会の結果は左記の通り。神宮大会ベスト4に入ったセンバツ優勝候補のチームについて、選考会の選考経過をもとにまとめてみました。ベスト4

○北陸高校（北陸地区代表）
昨秋の北信越大会優勝校。エース友廣 陸投手は身長からしなやかな腕の振り投げ込む本格派右腕で、指に掛かった回転の良いストリートに変化球でカウントを取れる安定感を持つ。新2年生竹田海士投手もストリート・スライダーを真上から投げ込む将来性がみな投手。強肩平田海智捕手が投手をうまくリードし、3番打者として打線を牽引する。攻撃力も全体に粘り強く、一戦一戦成長している。

○仙台育英高校（東北地区代表）
昨夏の選手権大会優勝チームであり、ベンチ入り選手9人が残り、総合力で頭一つ抜けており、東北大会優勝を果たした。投手力は複数投手制が確立されており、公式戦防御率1.76、どの投手が投げてもエース級の打球ができる。攻撃も上位から下位まで切れ目がなく多彩な攻撃パターンを持ち、得点能力は高く、内外野手ともに安定。甲子園経験者が順調に育ってチームの軸になっており、夏春連覇も可能なチーム。

準優勝校
○広陵高校（中国地区代表）
堅実な試合運びで地区大会において優勝した。エース倉重 聡投手はストレートの球威があり、低めの制球力もあり、かつ、3人の控え投手も安定感がある。攻撃力においても上位から下位まで切れ目のない強力打線であり、かつ、機動力もある。安定した投手陣と強力打線を有する優勝候補の一角。

優勝校
○大阪桐蔭高（近畿地区代表）
今秋ドラフト候補の左腕・前田悠伍投手が主将となり、神宮大会を2連覇を果たした。前田投手を柱に140キロを超える速球を投げる投手が数人いる。守備面ではセンターラインを中心に安定感あり。攻撃面では機動力と打線が繋がれば優勝候補の有力校。

4校以外の大会注目選手
○平野大地投手
専大松戸高校のエースで、181センチ・84キロの恵まれた体格から、最速151キロを投げ込む本格派右腕で、32回3分の1イニングで1.95の安定感あり、今秋ドラフト候補に挙がる逸材。

○宮國凌空投手
東邦高校のエース。沖縄出身。日本ハムでプレーした木下達夫副部長の指導により最速は飛躍的に上がり、149キロを誇る本格派右腕で今秋ドラフト候補。

○堀 柊那捕手
報徳学園では捕手として強気で投手陣を引っ張り、強肩とチャンスに強い打力でチームを勝利へと牽引し、『打てる司令塔』としての活躍が期待される。

○清原勝児内野手
慶応高校では中軸を務め、父は清原和博氏。本塁打を放てば、13年夏に日大山形・奥村展征（現ヤクルト）が父・伸一氏（86年夏）に続いて本塁打を放って以来10年ぶり3組目の親子弹の期待がかかる。

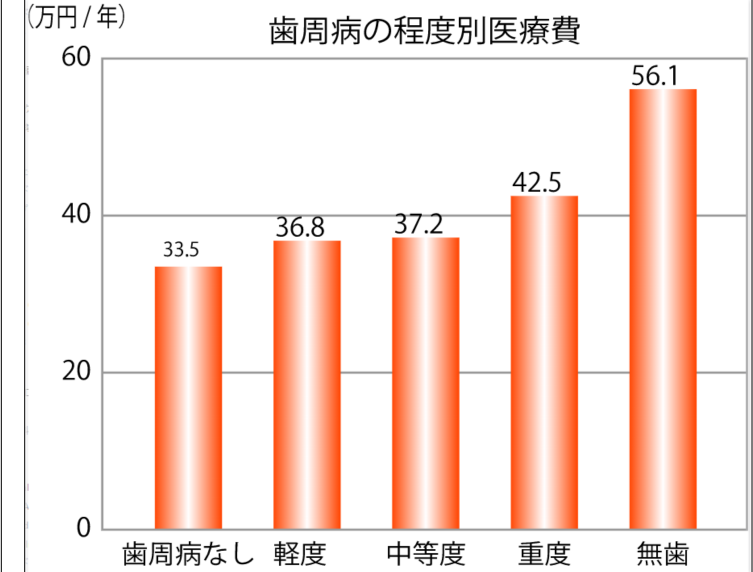
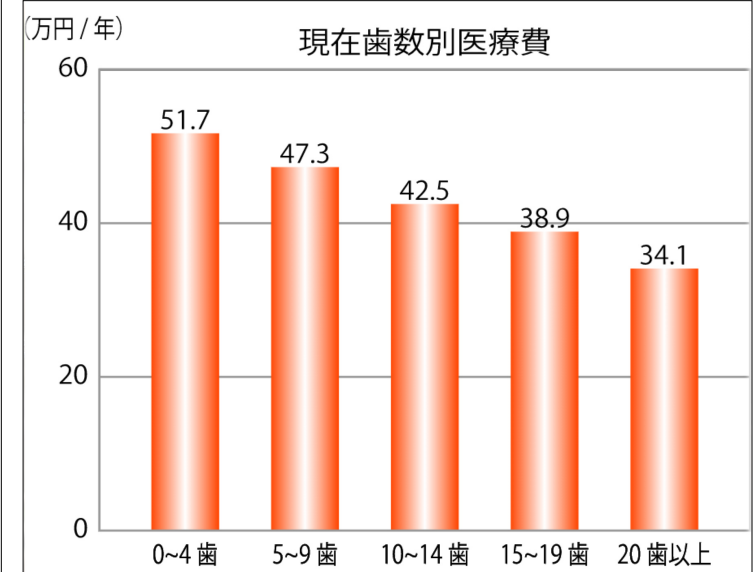
歯科の豆知識

定期的な受診による口腔ケアの重要性

歯科は痛みがあったら行くこと、患者様にも今でも根強く思われているようです。昨今、データ分析すると、健康のパロメーターは歯が関係するかもしれないということが最近になってわかってきました。定期的口腔ケアの重要性について、お伝えします。

第1回

歯の数が少ないほど、また歯周病が重度なほど、全身にかかる医療費が高くなる（香川県歯と口腔の健康づくり推進条例より抜粋）



浅野君情報

2月1日、巨人の春季宮崎キャンプが同市内の「ひなた宮崎県総合運動公園」で始まった。2軍スタートの浅野君は、青島神社参拝後、ひむかスタジアムでアップを開始。キャッチボールやノックなどで汗を流し、午前中の練習を終えた。「いつも通り声を出して頑張りたい」と前日に宣言していた期待のドラ1は、声を張り上げてプレーした。原辰徳監督は同日、2軍のひむかスタジアムを訪れ、浅野君のフリー打撃を二岡2軍監督と視察。

「気持ち良さそうに打っているしね、色んなものを超えていかなきゃいけないとは思いますが、もね、非常に安心しました。徐々に、いいと思います」と話した。12日（日）の紅白戦第2打席目、レフト前にヒットを放ち、気恥ずかしそうに小さなガッツポーズを見せた。

キャンプは14日で前半終了し、16日から1軍メンバーは那覇で調整することになる。

2軍スタートになった浅野君は連日順調に調整を重ね、手にできた豆も癒えつつあるのか、フリーバッティングではフェンスを大きく越える辺りを連発。本来の調子が戻りつつあるのか、笑顔が時折伺える。

18日（土）ソフトバンクと2軍練習試合にて2番センターでスタメン出場を果たし、3回ソフトバンク井上選手の放った難しい打球を好捕し貢献したが、無安打に終わる。

26日（日）広島2軍との練習試合にて2番中堅でスタメン出場。5回2死二塁で迎えた第3打席、大道投手の3球目を中



地域だより

○春一番のお知らせ
4月1日、例年恒例になっていた、築地コミュニティセンター（築地町14番1号）でのお茶会が約3年ぶりに復活するようです。また、グラウンドにきれいに咲いた桜をご堪能いただければと思います。お問い合わせ ☎087-862-1166

